

2018年3月25日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会 (第468回)

「 御坊と道成寺 (青春18きっぷ利用) 和歌山 」

前日夕刊の「桜だより」で、関西の桜の名所96ヶ所の中で満開はただ1カ所。和歌山県の道成寺のみでした。私達は、まさに桜満開の、その道成寺を訪ねました。

まの	歌山仲仁	つはみ
まみ	和歌山	
まみ	和歌山城	咲き始め
まみ	和歌の浦	咲き始め
まみ	紀三井寺	咲き始め
まみ	道成寺	満開
まみ	動鳴気峽	七分咲き
まみ	相楽寺	咲き始め

* * * *

直前の3月17日に行われたJR春のダイヤ改定で、乗車する列車の一部変更もあり、幹事は予定の組み直し、連絡に大わらわでしたが、綿密なグループ分け、スケジュール調整のおかげで、全員が無事に列車を乗り継ぎ、10時58分にJR紀勢線「御坊(ごぼう)」駅に着きました。参加は男性15名、女性8名です。

天気は快晴、日中は初夏を思わせる陽気になりました。御坊は日高川が紀伊水道に注ぐ所に出来た町。熊野詣の宿駅として、また大阪と江戸を往来する廻船の港として賑わいました。平安時代以来の歴史ある土地ですが、度重なる日高川の氾濫で、災害と復興が繰返されて来ました。

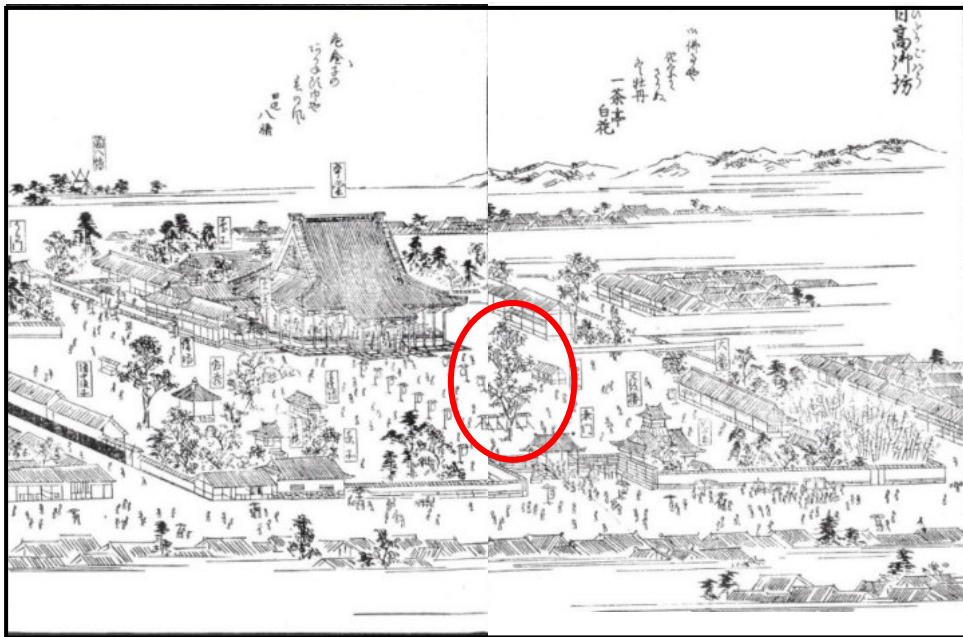
そのような歴史を背負って、町内に残る家々にも、和風と洋風の入り混じった、個性的なものが感じられました。一見、銀行かと思われるこの洋風建築。実は、酒屋さんでした。昭和3年の建築で、細部にも洋風の意匠が凝らされています。これを建てた当主の心意気が感じられますね。



こちらはまた、純和風の豪壮な邸宅。江戸時代より、紀伊山地の豊富な木材を商って栄えてきた中川家の住宅で、昭和13年の完成です。銘木をふんだんに使い、細部にも贅を尽し、「日高御殿」とも称されたとか。国の「登録有形文化財」に登録されています。朝が早かったので、ここで早目のお昼を戴きました。

「御坊」の名の元になったお寺を訪ねます。本願寺日高別院です。

1532（天文元）年に土地の豪族湯河直光が寺を建て、やがて本願寺直属の寺になります。西本願寺御坊、日高御坊などと呼ばれた事から、地名も「御坊」になって行くのです。紀伊国名所図会に、日高御坊の盛んな様子が描かれています。



紀伊名所図会が発行されたのは、1811（文化8）年の事です。

お寺の本堂は1825（文政8）年に建て直されていますから、この絵はその前の姿を伝えている事になります。門と本堂の間に1本の大きな木が描かれています。（赤丸印）1595（文禄4）年、お寺がこの地に移転した時に植えたというイチョウの樹です。



そのイチョウは、今も、総檜造りの豪壮な本堂の前に太く高くそびえています。名所図会の時点で、樹齢200年余り、現在では樹齢400年余という事になります。樹高18m、胸の高さで幹回りおよそ5m、和歌山県の文化財に指定されています。

日高御坊を中心にした地域は税金が免除されたため、人が集まり、自治集落「寺内町」が形成されます。

江戸時代、1800年代初めごろで、家数237軒、人口870人と記録されています。

その力が、明治以降、発電、紡績、製材などの産業を興す源となるのです。鉄道もその一つでした。

1929（昭和4）年4月に、国鉄紀勢西線 紀伊由良-御坊間が開通しますが、御坊駅は町の中心から北に離れて設けられました。

そこで地元では、御坊駅から港のある日高川まで、独力で鉄道を敷く事を計画します。御坊臨港鉄道です。順次路線を伸ばして、日高川まで開通したのは5年後の事でした。

特産のミカンもこの鉄道で港まで運ばれ、船で神戸、大阪、東京に送られたという事です。沿線には紡績工場も建設され、鉄道は産業の足としても活躍します。

1960年代には年間100万人が利用したという事です。

当時の営業距離は3.4km、「日本一短い鉄道」と呼ばれた事もありました。

しかし時代の波を受けて利用は減少。経営も変わって「紀州鉄道」となり、

1989（平成元）年には、西御坊～日高川の間（0.7km）は廃線となります。



残されたレールと、紡績工場のレンガの塀が当時の御坊の元気を偲ばせてくれます。そして、警笛に驚いて後ろを振り返ると、今もけなげに走る気動車の姿がありました。残った西御坊～御坊間（2.7km）を一日20往復走っています。

私達も8分間「紀州鉄道」全線に乗り、御坊駅でJRに乗り換えて、一駅先の「道成寺」に向かいます。これが青春18きっぷの強みです。

道成寺はまさに満開の桜で迎えてくれました。寺の伝えによれば、701（大宝元）年に文武天皇の勅願により、天皇夫人宮子の生誕の地に創建されました。紀大臣道成が建設に当たった為、道成寺と呼ばれることとなります。和歌山県内で最も古い寺院であり、その盛んな様は、国宝の千手観音像（平安前期）の優れた佇まいなどでもうかがい知ることが出来ます。



そして、道成寺の名を広めたのは、能、歌舞伎、人形浄瑠璃、舞台、映画等々の「道成寺もの」で知られる、「安珍と清姫」の物語です。

熊野詣での人々にとって他人事ではない（？）「安珍 清姫」の物語。

修業を志す僧安珍の迷いと懼れ、一途に思い詰め、安珍を追い蛇体と化す清姫。

絵巻物を紐解きながら、寺僧が説き聞かせる説法は、今も日々繰り返されています。

私達も、ご住職のユーモアあふれる「絵解き説法」を拝聴して種々反省、桜を満喫しました。

* * * *

相変わらずの蛇足で失礼します。

蛇足1 安珍清姫ものがたり

紀伊名所図会に、道成寺縁起絵巻の一部が採録されています。

絵柄は、お寺に伝わる絵巻に非常に近いものです。

江戸時代の人々もこうして物語を知っていたのです。抄録でご紹介しましょう。



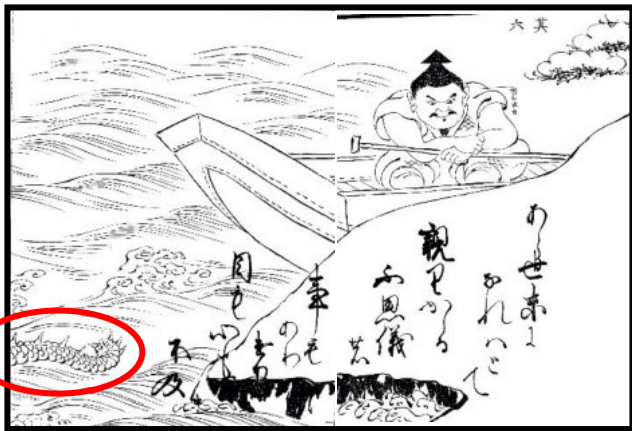
親しく語らう二人



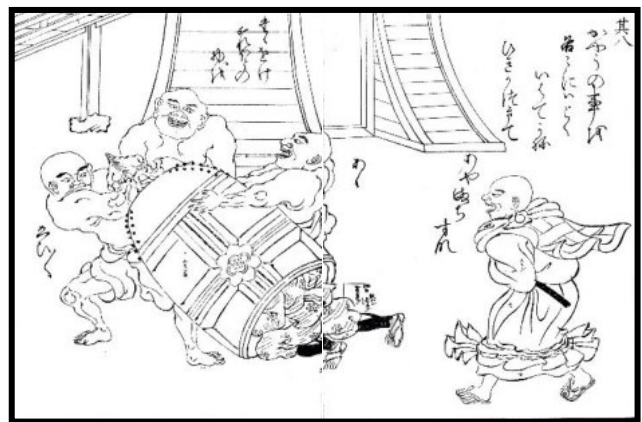
帰路に立ち寄る事を
約束して…



約束は破られた！！
脱ぎ捨てられた履物が哀れ



川を渡ろうにも、船頭も乗せてくれない
清姫は蛇体と化して…（赤丸印）



僧たちに助けられ鐘に潜り込む安珍
しかしこれが命取り……

蛇足2 二上山の事

前回のどんづる坊の記事で、大和名所図会に二上山の絵は無いと書きました。

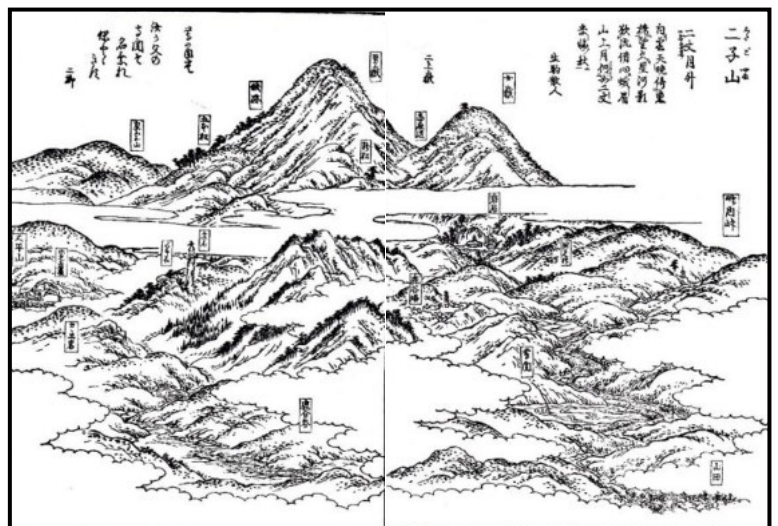
実は、河内名所図会に載っている事に気付きました。（裏を取るという、取材の鉄則を怠り、お恥ずかしい限りです。この部分は駄洒落です！！）

大阪側から描いているので、奈良側から見るのとは当然左右が逆です。

因みに著者は同じ秋里籬島で、

大和名所図会は1791（寛政3）年の刊行、

河内名所図会は10年後の1801（享和元）年刊行です。



* * * *

ご 案 内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。
メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

(事前に予約が必要な場合もあります)

- 今後の予定
- 4月 宇陀松山城跡～大宇陀松山の町並みを訪ねる (奈良)
 - 5月 「茶源郷」和束 緑波の茶畑と新茶の薫り (京都)
 - 6月 大正街歩き、渡船に乗って沖縄の風を感じる (大阪)
 - 7月 光秀ゆかりの福知山城と御霊神社を訪ね、由良川で治水の歴史を学ぶ
(青春18切符を利用 京都)
 - 8月 暑さを避けて 休会
 - 9月 六甲の自然を取り込んだ広大な神戸市立森林植物園を楽しむ (兵庫)
 - 10月 京都トレイル第2回 伏見稲荷から蹴上へ (京都)
 - 11月25・6日 若狭・三方五湖と鯖街道を歩く (1泊2日のツアー)
 - 12月16日 納会 (大阪)
 - 1月 エキゾチック！世界宗教寺院めぐり (兵庫)
 - 2月 日野ひな祭り紀行と町並み散策 (滋賀)
 - 3月 華岡青洲の里を訪ねる (和歌山)

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。(電話 0743-20-4159)

一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

生島(おじま)幸弥 記